

# まちづくり委員会資料

等々力陸上競技場第2期整備  
「整備の基本的な考え方」について

建設緑政局

# 等々力陸上競技場第2期整備「整備の基本的な考え方」について

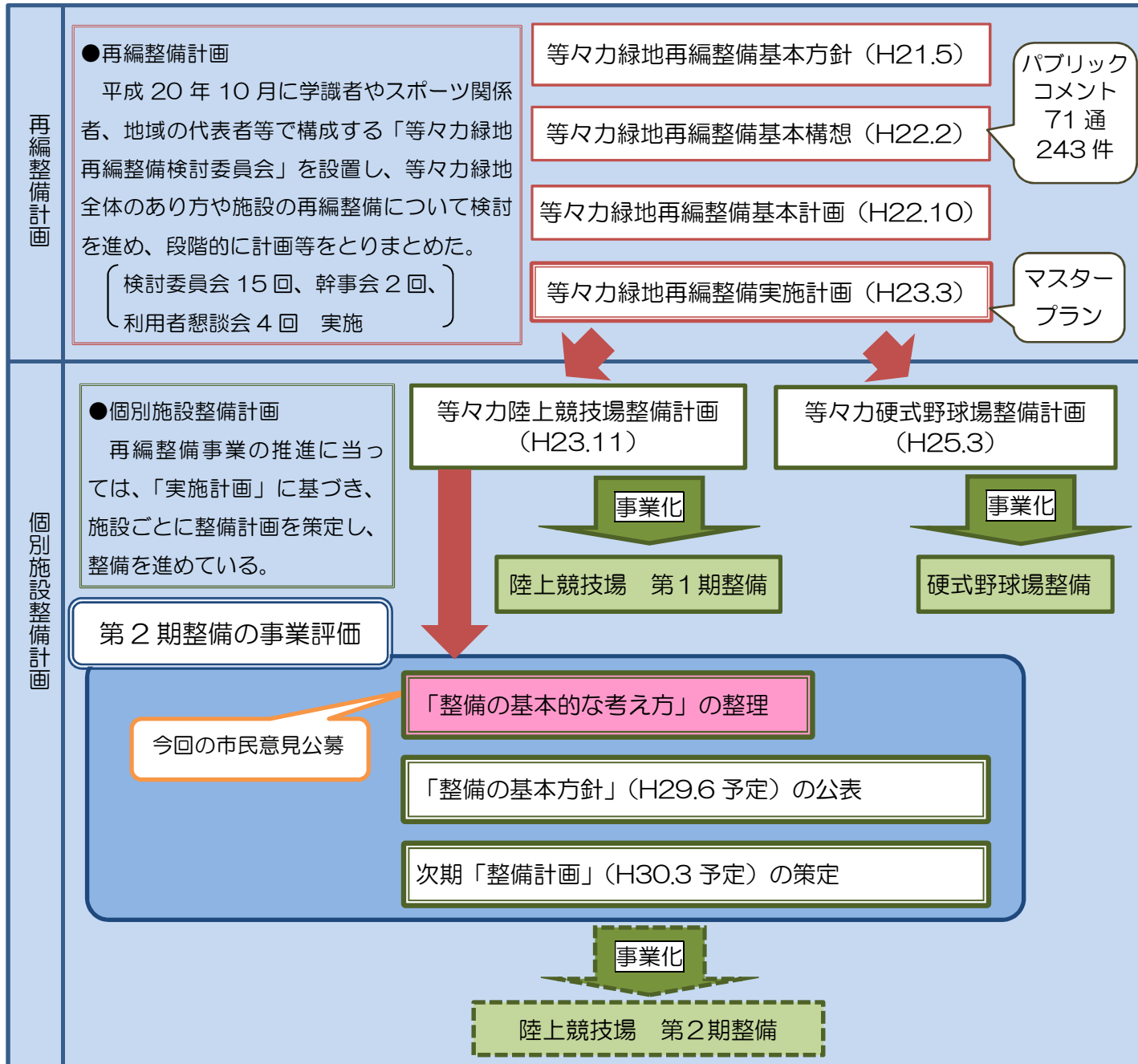
## 1 目的

等々力陸上競技場は、施設の安全対策や機能向上等の必要性から平成23年11月に「等々力陸上競技場整備計画」を策定し、**第1期整備としてメインスタンドの整備（平成27年3月供用開始）を実施しました。**

**第2期整備（サイド・バックスタンド整備）については、事業評価として、第2期整備のあり方や整備手法及び事業費、工事期間、周辺に与える影響、資産マネジメントの取扱いなどを総合的に検証し、整備計画を策定してまいります。**そのため、今年度は各種競技を開催するための基準や要望等の課題を改めて整理するとともに、時代のニーズを見据えた公園施設としての競技場のあり方などを踏まえ、「現状と課題」、「課題改善の視点」、「整備の基本的な考え方」の整理を行い、**市民の皆様等のご意見を募った上で、「整備の基本方針」として取りまとめ、平成30年3月に策定予定の次期「整備計画」に反映させてまいります。**

## 2 「整備の基本的な考え方」の位置付け

「事業評価」では第2期整備の「整備の基本方針」及び「整備計画」を取りまとめ、事業化を図ります。

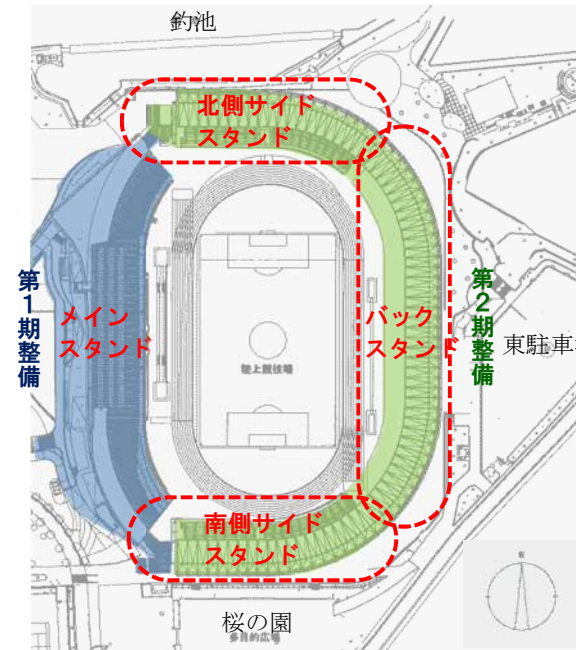


## 3 陸上競技場整備の現状と課題

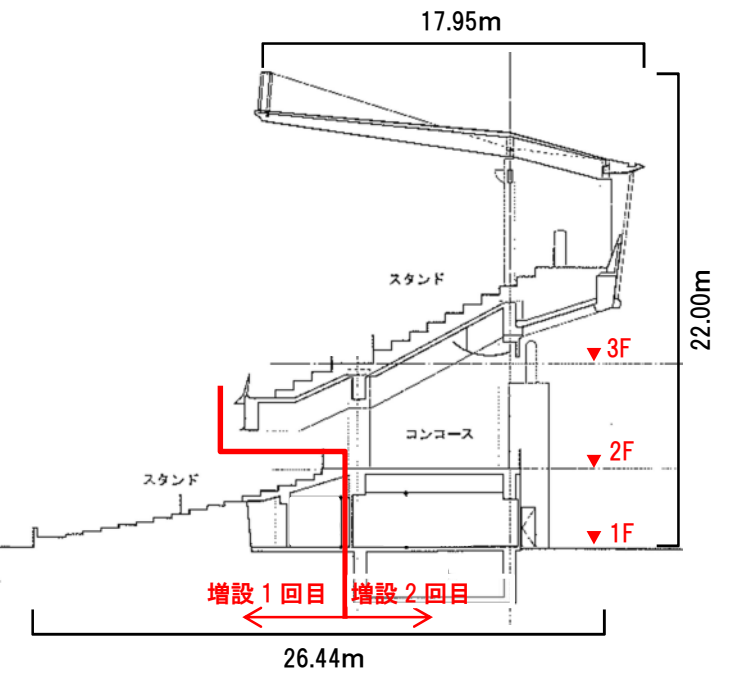
### 3-1 施設概要

- 施設面積：43,957.04 m<sup>2</sup> (サイド・バックスタンド：22,103.18 m<sup>2</sup>)
- 主な整備歴：
  - 昭和41年度 メインスタンド・外周芝生スタンド整備
  - 昭和57年度 バックスタンド増設1回目(1階スタンド整備)
  - 平成6~7年度 サイド・バックスタンド増設2回目(2層式スタンド整備)
  - 平成27年3月 陸上競技場第1期整備
- 陸上競技場：日本陸連第1種公認、陸上トラック 400m×8レーン
- 収容人員：27,495人(※30,000人規模)(※Jリーグ公式届出は、26,827人)

【平面図】



【バックスタンド断面図】









【全景写真】



【サイドスタンド・バックスタンド写真】



3-2 サイド・バックスタンドの現状

|               |   |  |   |
|---------------|---|--|---|
| <p>収容可能人数</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・メイン：7,495人(1万人対応可)</li> <li>・サイド・バック：20,000人</li> <li>合計：27,495人</li> <li>(※30,000人規模、Jリーグ公式届出は、26,827人)</li> <li>・一部、競技が見えない見切席がある。</li> </ul> |                              |  <p>柱等により観戦できない席がある(見切席)</p> |
| <p>観客席の屋根</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・上層スタンドのみ屋根がかかっている。下層には屋根がない。</li> <li>・鉄骨部の錆が進行している。</li> </ul>   |  <p>屋根のある上層スタンド</p>          |  <p>鉄骨部の錆</p>                |
| <p>観客席</p>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・上層スタンドは、全て背もたれ付きイスとなっている。</li> <li>・下層スタンドは、サイドはイスの無い立見席、バックは背もたれ無しイスとなっている。</li> <li>・床防水やコンクリートの劣化が見られる。</li> </ul>                           |  <p>バックスタンド下層(背もたれ無しイス)</p> |  <p>サイドスタンド下層(立見席)</p>      |
|               |  <p>バック・サイドスタンド上層(背もたれ付きイス)</p>  |  <p>コンクリートの劣化</p>          |  <p>防水の劣化</p>              |
| <p>コンコース</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に通路幅は狭い。特に階段部は通路幅が狭くなっている。</li> </ul>  |  <p>コンコース</p>              |  <p>階段付近</p>               |
| <p>来場者ゲート</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・サイドスタンドとバックスタンドのゲートに屋根が無いので、雨の日はテントを設置して手荷物検査等を行っている。</li> </ul>  |  <p>サイドスタンド7番ゲート</p>       |  <p>バックスタンド10番ゲート</p>      |

|                   |  |   |   |
|-------------------|--|---|---|
| <p>ユニバーサルデザイン</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・下層スタンドコンコースに車イス席がある。車イス席は、前の1階席の観客者が立つと見えにくい。</li> <li>・サイド・バックスタンドにはエレベーターがない。</li> <li>・サインをはじめ、ユニバーサルデザインに配慮していない。</li> </ul> |  <p>車イス席</p>           |  <p>サイン</p>            |
| <p>トラック・フィールド</p> | <p>走路</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・400m×8レーン、レーン幅1.25m</li> <li>(現状のスタンドでは9レーン化は困難、部分改修が必要)</li> </ul>  |  <p>トラック・フィールド(北側)</p> |  <p>トラック・フィールド(南側)</p> |

3-3 既往計画における陸上競技場整備の内容

既往計画において、陸上競技場の整備(全体及び第2期整備関連)について次のとおり示しています。

「等々力緑地再編整備実施計画」(平成23年3月)

- 現位置で整備を進め、競技場周囲における歩行者の通行・待機スペースを考慮する。
- 施設規模は、3万5千人程度とする。
- 工期を分割し、第1期整備としてメインスタンドを、第2期整備としてサイド・バックスタンドを整備する。
- 整備期間中の施設閉鎖期間を可能な限り短縮する。

「等々力陸上競技場整備計画」(平成23年11月)

- 駐車場は、現状程度の台数を確保するため、歩車分離することにより、競技場スタンド下や競技場南側の広場等を駐車スペースとして活用する。
- 第2期(サイド・バックスタンド)整備は、複数の工期に分割することを前提に、事業評価を実施したうえで、整備方針を決定していく。
- 第2期(サイド・バックスタンド)整備は、平成5年度から7年度に行った増築の際の市債の償還が終了していないので、事業評価を実施したうえで、整備方針を決定していく。
- プールの大規模施設への複合化は、硬式野球場スタンド下及び競技場メインスタンド下は諸室等を整備する必要があることから困難であるため、事業評価を実施したうえで、陸上競技場サイド・バックスタンド下への複合化の可能性について検討する。

### 3-4 サイド・バックスタンドの主な課題

陸上やサッカーなどの競技・観戦を行う上での陸上競技場の主な課題は次のとおりです。

#### ◆ 競技に関する法令・基準等の課題

- ▶ スタジアム全体で収容可能人数を35,000人以上確保すること、全ての席を幅のある背もたれ付きの個席化にすることなどへの対応が求められています。(Jリーグ スタジアム検査要項 2020年度用案(背もたれ付きの個席化はAFCスタジアム規則も該当))
- ▶ 新設及び大規模改修を行う場合は、全ての観客席を屋根で覆うことが求められています。(Jリーグ スタジアム検査要項 2016年度用)

#### ◆ 利用者等要望からの課題

- ▶ 陸上トラック走路を現状の8レーンから9レーンへの実施。競技記録に影響を及ぼす南風対策の実施。
- ▶ スタンドの収容可能人数を増やし、立見席や柱等で競技が見えない見切席の改善を含めた観客席の観戦環境の向上、安全な来場者動線の確保。
- ▶ 床のひび割れ、雨漏りや水溜り、柵、音響・映像システムなど、施設の老朽化に対する改善の実施。
- ▶ エレベーターの設置や多目的トイレの充実、安全で円滑な通行導線の確保など、ユニバーサルデザインの実施。
- ▶ 競技開催に伴う公園隣接地に対する騒音の低減。

#### ◆ 公園施設としての課題

- ▶ 試合や大会の無い日でも日常的に利用できる施設を導入することや、誰もが利用しやすい施設とするなど、魅力の向上を図るとともに、管理・運営がしやすい施設とすること。
- ▶ 公園施設として景観に配慮するとともに、環境負荷を低減する施設とすること。
- ▶ 災害に強く災害時の備えがあり、活動拠点としても活用できる施設とすること。
- ▶ 工事を行う場合は、競技運営や周辺施設への影響を最小限に抑えること。

## 4 課題改善に向けた視点

「3-4 サイド・バックスタンドの課題」を踏まえ、第2期整備における課題改善に向けた視点を抽出しました。

|           | 課題改善に向けた視点      | 内容                            |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 1. 基準等の課題 | 収容可能人数          | ・J1リーグで求められる入場可能数 35,000人を確保  |
|           | 観客席の屋根          | ・観客席全体を覆う屋根                   |
|           | 観客席の個席化<br>座席の幅 | ・入場可能数 35,000人を確保した上で、観客席の個席化 |

|                    | 課題改善に向けた視点          | 内容  |
|--------------------|---------------------|---|
| 2. ユニバーサルデザイン等への配慮 | 快適な観戦環境             | ・観客席にある程度の勾配を持たせ、ピッチが見やすい環境                                       |
|                    | 安全な来場者動線            | ・スムーズで安全な来場者動線  |
|                    | ユニバーサルデザイン          | ・全ての人に利用しやすい、エレベーターの設置やバリアフリーに配慮した施設<br>・親子連れや外国人など、多様な利用者に配慮した施設 |
| 3. 施設運営の安全性確保      | スポーツ・ノーマライゼーション     | ・高齢者や障害者の競技者及び観戦者に配慮した施設  |
|                    | 施設の老朽化への対応          | ・床のひび割れや雨漏り、水溜り、音響映像の不備などを解消<br>・保安施設の充実                          |
| 4. 機能の充実・魅力の向上     | ICTや映像機能の充実         | ・ICT(情報・通信技術)など管理・運営や魅力の向上に繋がる機能                                  |
|                    | 走路の9レーン化            | ・陸上トラック走路の9レーン化   |
|                    | 施設の複合化<br>地域の賑わいの創出 | ・利用拡大を目的とした施設をスタンドに併設<br>・地域の人が日常的に交流し、利用できる施設                    |
| 5. 環境への配慮          | 省エネルギー化             | ・照明施設のLED(発光ダイオード)化や壁面緑化などによる省エネルギー化、環境への負荷低減                     |
|                    | 再生可能エネルギーの活用        | ・太陽光や地中熱、雨水、地下水など、資源の有効活用   |
|                    | 公園との調和              | ・公園内に相応しい、緑と調和する景観に配慮した魅力的な施設                                     |
|                    | 居住環境への配慮            | ・近隣への騒音対策   |
| 6. 防災対策上の課題        | 震災・水害対策             | ・一時避難場所や災害時活動拠点としての活用<br>・浸水に対応した構造                               |
| 7. 工事に伴う施設運営上の課題   | 陸上・サッカーへの影響         | ・陸上競技やJリーグ等の運営に支障のない工事計画<br>・施設整備に係る工期の短縮                         |
|                    | 周辺への影響              | ・陸上競技場以外の周辺への影響   |
| 8. 整備に向けた財政上の課題    | イニシャルコスト            | ・施設整備にかかる投資費用の低減  |
|                    | 維持修繕費               | ・施設を維持するための維持修繕費用の低減  |
|                    | 資産マネジメント            | ・既存施設の市債償還などの資産マネジメントの総合的な検証                                      |

## 5 整備の基本的な考え方

課題改善に向けた視点を基に、整備の基本的な考え方を次のとおり示します。

### 1 緑地や地域の賑わいを創出する持続可能な施設とする

- ・メインスタンドや他の緑地内施設とあわせ、常に多くの人々が訪れ利用できる施設等を設け、その集客力や収益性により地域還元を図る取組や、民間活力の導入を検討するとともに、賑わいにより公園内をはじめ、公園周辺及び小杉駅周辺地区を含めた地域の活性化に資する施設とする。
- ・地域のアイデンティティとなる二ヶ領用水や多摩川緑地と一体となった魅力づくりを進める。
- ・効率的な管理・運営や来場者がより楽しむことができるように、ICTや映像等の先進技術の機能の充実を図り、常に多くの人々が訪れ、賑わいを保つ施設とする。

### 2 多くのスポーツの拠点に相応しい、魅力的で誰もが利用できる施設とする

- ・Jリーグや国際的な陸上競技大会などが開催できる収容可能人数 35,000 人規模で、日本陸上競技連盟第1種公認施設とし、幅広いスポーツ利用とプロから一般までの各種大会が開催できる、川崎のスポーツの拠点となる施設とする。
- ・競技の臨場感溢れる快適な観戦環境を確保することにより、選手と観客の一体感を生み出し、スポーツをより楽しめる施設とする。
- ・Jリーグや陸上競技大会など以外でも、誰もが日常的に利用できる多目的な機能を備えた施設とする。

### 3 ユニバーサルデザインに配慮した安全・安心な施設とする

- ・競技者や観戦者を問わず、子供から高齢者、親子連れ、障害者、外国人など、全ての人々が使いやすい施設とする。
- ・円滑な通行動線の確保と案内等のサインやセキュリティを充実させ、安全・安心な施設とする。

### 4 環境に配慮した施設とする

- ・木材の活用などにより、公園内施設に相応しい、緑との調和に努めるとともに、周辺環境にも配慮した施設とする。
- ・太陽光や地中熱など、再生可能エネルギーを活用し、資源の有効利用を図るとともに、省エネルギー設備の導入や積極的な緑化により、環境負荷の軽減を図る施設とする。

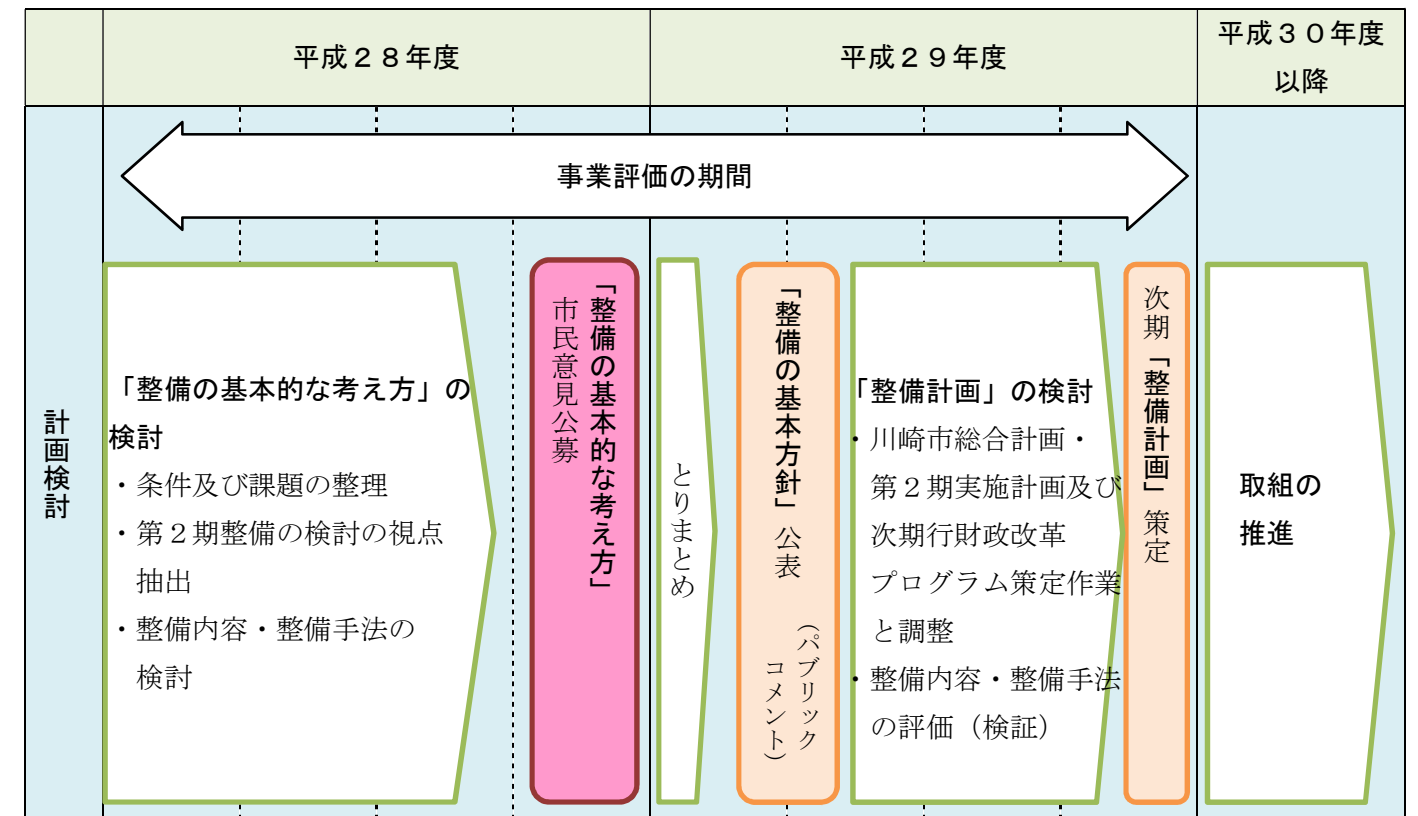
### 5 災害に対応できる施設とする

- ・地震災害時などにおいて、区民の安全を確保する一時避難場所、広域避難場所である等々力緑地の施設として活用できる施設とするとともに、災害支援活動に必要な物資を保管する防災備蓄倉庫を備えた施設とする。
- ・大雨時などの水害に配慮し、浸水に強い施設とする。

## 6 事業評価の取組内容とスケジュールについて

今回は、事業評価の一環として、「現状と課題」、「課題改善に向けた視点」、「整備の基本的な考え方」の整理を行いましたので、市民の皆様等のご意見を募集します。

今後は、この考え方を基に、第2期整備のあり方や整備手法及び事業費、工事期間、周辺に与える影響、資産マネジメントの取扱いなどを総合的に検証し、それを基に整備内容・整備手法の評価と整備時期の検討を行い、平成29年6月に「整備の基本方針」を公表し、平成30年3月に次期「整備計画」を策定し、陸上競技場整備に向けた取組を推進してまいります。



※ 「整備の基本的な考え方」の検討内容は、学識者から技術的・専門的分野から助言や提言を受けるとともに、陸上・サッカー・障害者スポーツ等の利用団体からヒアリングにより確認・意見聴取を行ってまいりました。

#### 助言や提言を頂いた学識者

造園分野：<sup>わくい</sup> 浦井 <sup>しろう</sup> 史郎 東京都市大学特別教授

建築分野：<sup>くりゅう</sup> 栗生 <sup>あきら</sup> 明 千葉大学名誉教授

エリアマネジメント分野：<sup>やすい</sup> 保井 <sup>みき</sup> 美樹 法政大学教授

(参考1) 今後の整備手法の比較検討イメージ

市民意見公募後は、以下の3つの整備手法について「事業評価シート」を作成し、第2期整備のあり方や整備内容及び事業費、工事期間、周辺に与える影響、既存スタンドの市債償還を含めた資産マネジメントの取扱いなど、総合的な比較検討を実施する予定としています。

|      | イメージ図                       | サイド・バックスタンドに関する基本事項   | 事業費      | 工期      |
|------|-----------------------------|---|----------|---------|
| 整備手法 | 現状維持<br>約22m<br>            | <p>【収容可能人数】 30,000人規模（メイン10,000人規模、サイド・バック20,000人規模）</p> <p>【観客席の構造】 2層式スタンド</p> <p>【観客席の屋根】 上層は屋根が架かっているが、下層は屋根が架かっていない。また、屋根の鉄骨部の錆や一部の雨漏りなど、施設の老朽化が見受けられる。</p> <p>【観客席の形態】 上層は背もたれ付きの個席であり、下層はサイドスタンドが立見席、バックスタンドが背もたれの無い個席である。</p> <p>【見やすさ】 下層の観客席の傾斜角度が緩く、サイトライン（可視線）が確保されていない。</p> <p>【来場者動線】 コンコースの幅が狭く、特に階段があるところが狭く、混雑する箇所がある。</p> <p>【ユニバーサルデザイン】 エレベーターやサイン等がない。</p>                                     | —        | —       |
|      | 改修イメージ（リノベーション）<br>約29m<br> | <p>【収容可能人数】 35,000人規模に対応可能（メイン10,000人規模、サイド・バック25,000人規模）</p> <p>【観客席の構造】 3層式スタンドであり、既存の2層目部分を活用し、1層目・3層目を増築する。</p> <p>【観客席の屋根】 屋根は観客席全体に架けることが可能である。</p> <p>【観客席の形態】 増築範囲の1層目・3層目は背もたれ付きの幅のある個席化が可能である。（2層目は既存の背もたれ付きの個席を使用。）</p> <p>【見やすさ】 増築範囲の観客席に傾斜角度をつけることにより、サイトライン（可視線）の確保など観戦環境の向上を図ることが可能である。</p> <p>【来場者動線】 増築により2・3階のコンコースが広がり、スムーズな移動が可能となる。</p> <p>【ユニバーサルデザイン】 エレベーターやサイン等、ユニバーサルデザインへの対応が可能である。</p> | 改築と比べ少ない | 25～37ヶ月 |
|      | 改築イメージ<br>約26m<br>          | <p>【収容可能人数】 35,000人規模に対応可能（メイン10,000人規模、サイド・バック25,000人規模）</p> <p>【観客席の構造】 2層式スタンドであり、メインスタンドと同様の形態とすることが可能である。</p> <p>【観客席の屋根】 屋根は観客席全体に架けることが可能である。</p> <p>【観客席の形態】 全席を背もたれ付きの幅のある個席化が可能である。</p> <p>【見やすさ】 全ての観客席に傾斜角度をつけることにより、サイトライン（可視線）の確保など観戦環境の向上を図ることが可能である。</p> <p>【来場者動線】 コンコースを広くとることにより、スムーズな移動が可能となる。</p> <p>【ユニバーサルデザイン】 エレベーターやサイン等、ユニバーサルデザインへの対応が可能である。</p>  | 改築と比べ多い  | 46～58ヶ月 |

※現在メインスタンドは10,000人規模の施設であるが、バラエティシートの設置等により7,495人の収容人数としています。

(参考2) 第1期整備(メインスタンド)の整備内容

第1期整備(平成24~27年)として完成したメインスタンドの整備内容は次のとおりです。

◆ メインスタンド整備概要

- 施設面積: 43,957.04 m<sup>2</sup> (メインスタンド: 21,853.66 m<sup>2</sup>)
- 供用開始日: 平成27年3月 陸上競技場メインスタンド整備
- 事業費: 7,935,382,320円(設計・施工一括発注)
- 収容人員: 27,495人(※30,000人規模)(※Jリーグ公式届出は、26,827人)  
(メインスタンド 整備前3,531人、整備後7,495人(※10,000人規模))

◆ メインスタンド整備の際に取り組んだ主な課題

- サッカーや陸上などの大会に対応できる座席数の確保。
- 既存スタンドは屋根が無いことなどから、快適な観戦環境の確保。
- 通路が狭く通りにくいことなどから、安全な通行環境の確保。
- 施設の老朽化に伴うコンクリートの亀裂につまずく危険性などがあったことから、安全性の確保。
- 車イス席は通路も狭く移動が困難であるとともに、座った状態での観戦は柵によりフィールドが見づらい状態であったことから、バリアフリーへの対応。

➡ 第1期整備に伴いメインスタンドの課題は改善。

◆ メインスタンドの主な整備内容

観客席の拡充と観戦環境の向上



【メインスタンド整備前】



【メインスタンド整備後】



臨場感溢れるピッチに近い前傾型のスタンド



幅のある背もたれ付きの観客席とバラエティ席の設置

安全な来場者動線とユニバーサルデザインへの配慮



円滑に移動できる幅の広いコンコース



屋根が架かった幅の広いゲート



観戦しやすい車イス席

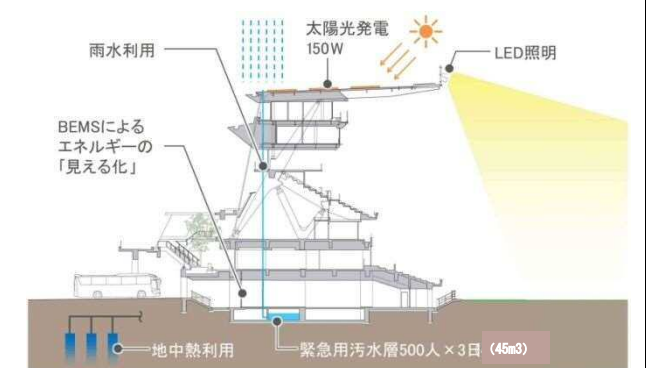


誰でも使用できる多機能トイレ

公園との調和、環境への配慮、防災対策の実施



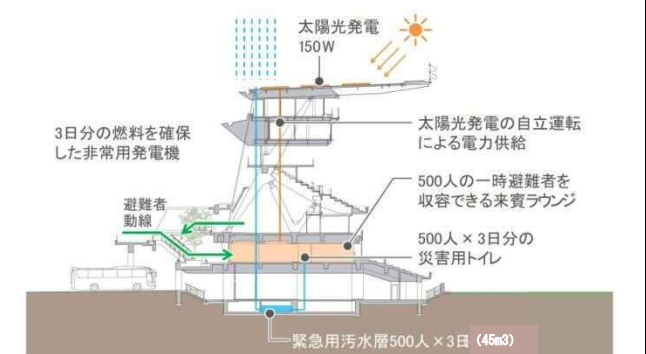
木材を活用し、公園との調和に配慮



LED照明の設置により環境負荷の低減  
太陽光と雨水、地中熱を利用した資源の有効活用



非常用発電機や太陽光パネルを設置し、災害時の電力を確保するとともに、一時避難者を収容できるスペースを確保



➡ サイドスタンド・バックスタンドを含めた陸上競技場全体としては同様の課題が残っています。